

マイナ保険証「メリットなし」多数

厚生省調査

岸田政権がゴリ押しする健康保険証のマイナンバーカードとの一本化に「赤信号」がともっています。厚生労働省の調査では、患者・医療機関

の多くが、政府が再三強調する「マイナ保険証のメリットは「特になし」と答えているうえ、逆に「手間がかかるとどの回答も少なからずありました。そもそもカード受診を「利用したことがない」とした人が47%を占め、高齢者の

「未活用」医療機関7割

回答が比較的多い郵送調査に至っては7割近くに達していません。

診察所（歯科含む）や病院が対象の調査では、カード受診に伴う診療・薬剤・特定健診情報の連携・共有で、患者のメリットは「特になし・分らない」との回答がそれぞれ3割強と5割強も。

「活用」は約2割にとまりました。患者の情報取得は、紙の問診票などの方が負担は「軽い」「変わらない」との回答を合わせると、4割強と5割弱を占めました。カード受診の方が負担は軽いと答えたのは約2割にとまりました。

診察所（歯科含む）や病院が対象の調査では、カード受診に伴う診療・薬剤・特定健診情報の連携・共有で、患者のメリットは「特になし・分らない」との回答がそれぞれ3割強と5割強も。

患者の情報取得は、紙の問診票などの方が負担は「軽い」「変わらない」との回答を合わせると、4割強と5割弱を占めました。カード受診の方が負担は軽いと答えたのは約2割にとまりました。

政府はあくまでマイナカード普及があります。厚生省は9日の社会保障審議会の部会で、各医療機関でカード受診の利用率が一定以上増えれば、増加分に充じた財政支援を行うと表明。助産所と健診実施機関でカード受診の設備導入を進める方針も示しました。